



## 「賦活」

現在私は西日本放送ラジオの長寿番組「タンゴアルバム」という番組を担当しております。

この番組なんと、西日本放送の開局当初からスタートしたという番組でして、すでに50年以上も放送が続いています。制作担当は私で十数人目になるのですが、この番組のDJはずうと変わりません。現在も県内外で音楽コーディネーターとして活躍する高松コンサート協会の岡田寛氏（郷土の文豪菊池寛と同じ名前から愛称はカンさん）です。番組スタート当初は番組のスク립トを書かれていたようですが、おしゃべり（DJ）としてはなんと昭和30年からということですから、今年でDJ暦50年です。

「タンゴアルバム」は毎週日曜日の深夜1時から30分間生粋のアルゼンチンタンゴを中心にお送りしている番組で『アルゼンチンタンゴ』が好き、というカンさんの情熱で続いている番組ともいえます。マイクの前で曲を紹介する時もそうですが、カフ（マイクの切り替えをする機器、カフをあげると放送中ということになる）をおろしスピーカーから流れてくるタンゴのメロディーにあわせて共に歌い体をゆらしスタジオで踊りだすのではと思う時もしばしばです。1曲かかるごと私に「いいでしょーこの曲」「最高だよこのバンドネオン」「リズムがはげれいいね！」と本当に楽しそうに語りかけてくれます。その姿にタンゴへ

の知識の深さは勿論のこと、作曲者や演奏家への深い愛情が感じられるのです。日本にアルゼンチンタンゴがやってきたのは昭和元年、勝海舟の孫として生を受けた目賀田綱美男爵が足掛け6年のフランスでの滞在を経て帰国、その時、持ち帰ったものが大量のアルゼンチンタンゴのレコードでした。ここから日本でのアルゼンチンタンゴの歴史が始まります。昭和7年1月30日香川県高松市に生まれたカンさん73歳。タンゴが日本にやってきた同時代に生まれたカンさんは、日本のタンゴの歴史とともに生きてきたような人でもあります。カンさんは言います「音楽は精神を賦活させる」と。たしかにカンさんは若い、声のはり、ものの考え方。これをしたいたいあれをしたいたいと夢もいっぱいありますし、スケジュール帳も予定がいっぱいです。時々私もカンさんの年齢は違っているのではないかと思うくらいです。そんな姿をみていると音楽を愛し、そして接し続けると精神、肉体ともども活性化されるというカンさんの自論はまんざら嘘ではないような気がします。

人それぞれ考え方も趣向もちがいますから音楽はちょっと苦手という方もいるかもしれません。

カンさんにとって音楽が精神を賦活させるものであるように、自分自身にとっての「賦活剤」をもっているかないかによって、人生の重ね方は違ってくるのではないのでしょうか？

つもちゃんの

ドハマ  
バタ  
ラジオ日記

以前お話しを伺った税理士の方がやはり税理士であったお父様の生き方を「生涯現役臨終引退」という言葉であらわしていらっしゃいました。ご自分もそうありたいとおもっていました。

そして私もまったく同感！です！いい賦

活剤をもって年を重ねていきたいものです。

よろしければ日曜日の深夜、西日本放送ラジオを聞いてみてください。もしかすると「タンゴアルバム」があなたの賦活剤になるかもしれません。(笑)

## お す す め 取材日記

### 「石臼」

牟礼町に石臼を作っている石材店があるので伺いました。

そこは「中山石材」さん。作っているのは石に携わり20年という中山忠彦さん。約10年前から各種の石臼を製作。

石臼は「おもしろい」と中山さん。角度や大きさで様々なものがすり潰されその大きさもいろいろ工夫のしがいがあると本当に楽しそうです！（なんと鉄の釘もすり潰せるそうです）

私はコーヒー豆を挽きました。挽いている間も香りがいい。深い味のあるコーヒーをいただきました。

